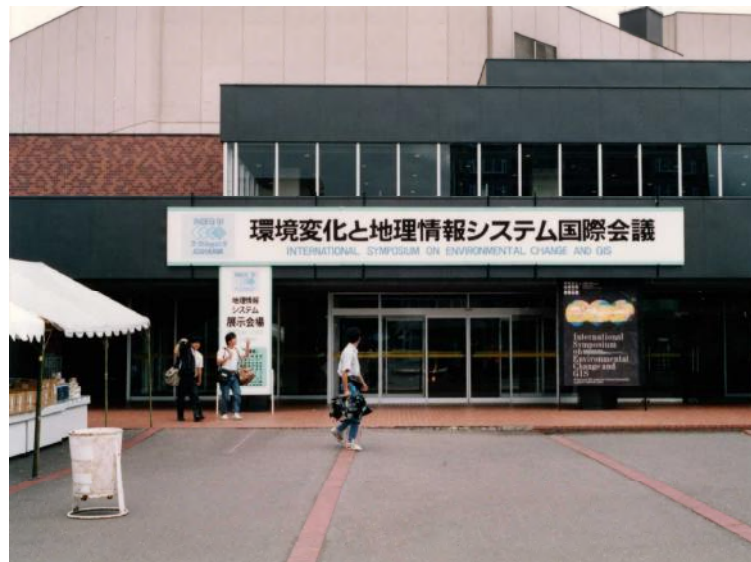


第17回北海道測量技術講演会

「私たちの身のまわりの環境地図作品展」を通じた地図で『伝える』取組

2020年1月30日

北海道教育大学名誉教授
氷見山幸夫



「私たちの身のまわりの環境地図作品展」は、1991年8月に旭川市で開催された「環境変化と地理情報システム国際会議」(INSEG'91)の付帯事業の一つとして始められた、我が国唯一の児童生徒のための国際的な地図作品展です。この地図展の基本理念は、子供たちが自ら身のまわりの環境を観察し、その結果や考えたこと、感じたことなどを記録し、それらを地図作品に表現し、成果を発信することです。この地図作品展の学習効果は大きくかつ多様ですが、ここではそれを通じた地図で『伝える』取組を中心にお話しさせていただきます。

地図は地表の情報を収集し、記録し、整理し、分析し、表現し、そして伝えるための手段として、大変有用です。しかし日本の地図教育は、伝統的に地形図などのいわゆる官製地図の読み取りを重視しており、地図がもつ多様な用途や役割に広くこたえるものでは必ずしもありませんでした。一方で環境地図作りを取組む子供たちは、無意識のうちに情報の収集に始まる上記の一連のプロセスのすべてを苦勞しながら実際に体験し、地図に対する理解を深めています。さらに言えば、地域的・空間的・環境的・総合的なものの見方考え方を含み科学力全般の能力を高めています。

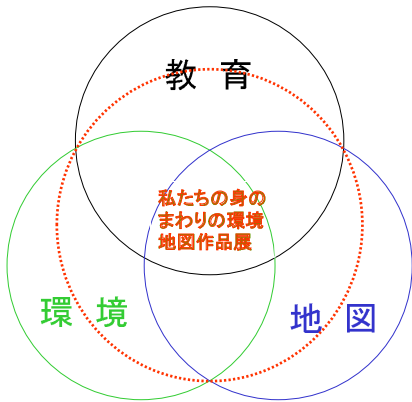
環境地図づくりで高める学力

- 1) 計画立案
- 2) 調査準備
- 3) 調査・観察
- 4) 記録(マッピング)
- 5) 地図作製
- 6) 地図の読みとり・説明
- 7) 発表

総合的科学的学力、地域的・空間的視点と知識、Graphicacy、地域・環境・地図 etc. への関心、小・中・高・大・社会の連携・

マルチスケールの空間的・地域的思考力→グローバル環境教育

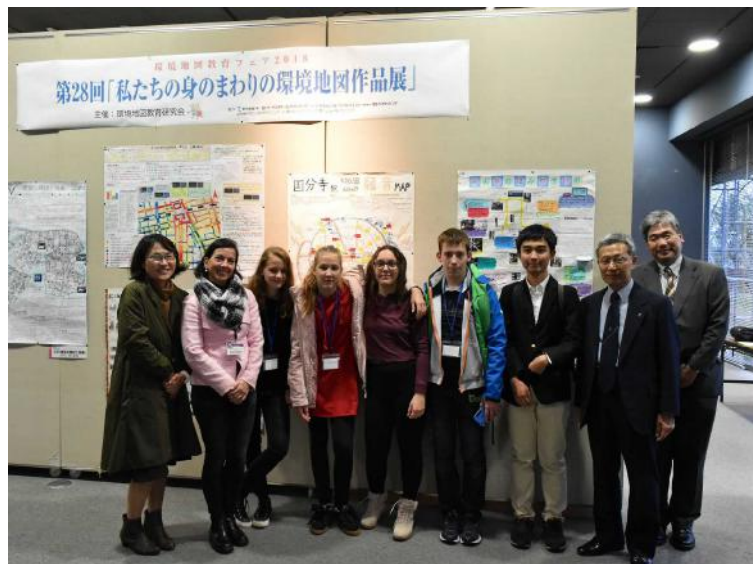
- ・ 地球規模で考えて、身近なところで行動する
(Rene Dubos, UN Conference on the Human Environment)
- ・ 地球規模で考えて、地球規模で行動する
- ・ 身近なところで考えて、地球規模で行動する
- ・ 身近なところで考えて、身近なところで行動する



環境地図教育ネットワーク

The screenshot shows the homepage of the Society for Environmental Map Education (SEME). At the top, it says '環境地図教育研究会 The Society for Environmental Map Education (SEME)'. Below this is a navigation menu with buttons for 'ホーム' (Home), '研究会について' (About us), '活動内容' (Activities), '組織' (Organization), 'リンク' (Links), and 'お問い合わせ' (Inquiry). The main content area features a large image of a 'STREET FURNITURE MAP' and a section for the '第27回 私たちの身のまわりの環境地図作品展' (27th Environmental Map Exhibition). There are also links for '応募方法について' (How to apply), '2016年度受賞作品' (2016 prize winner), and 'みんなの環境地図ワークショップ2017' (2017 Environmental Map Workshop).

(環境地図教育研究会ホームページより)





第27回私たちの身のまわりの環境地図作品展 2017.10



中国の小・中・高・大の先生や地理・環境教科書会社の社長さんと共に 2008.12



環境地図展が縁で中国中山市の中学校を訪問した学生たち 2010.3

優れた地図文化を社会に定着させるには、地図の作り手だけでなく、読み手の読む力も高める必要があります。幸い環境地図展にこれまでに出品された沢山の素晴らしい環境地図作品は、そのための多くの視点や材料、ヒントなどを私たちに提供してくれます。例えば1990年代にマセドニアから寄せられた公園の地図は、国が疲弊していた時代に公園の遊具の多くが壊れたりいたんだりしていたことを痛烈に訴えていました。また旭川の「フラワーロード」の地図は、自宅の近くの歩道に作られた美しい帯状の花壇への思いを町内、学区、北海道、全国へと、グローバルな思いにつないでいました。



身の回りの環境から全国
の環境へと思いをつなぐ
地図作品の例 2006



地図の良さにもいろいろあります。着想がユニークなもの、美しさに拘ったもの、研究心が光るもの、地図表現が素晴らしいもの、伝えるための工夫をこらしたもの、訴える力が溢れているもの、などなど。高学年の地図作品では、「どこに何々がある」という視点から一步進めて「どういう(条件の)ところに何々がある」という視点からも地図の内容を吟味し、地図を作る側と読む側にとっての『伝える』取組の課題を考えたいと思います。限られた時間ですが、できるだけ多くの素晴らしい作品を皆さんと一緒に堪能し、学んでいきたいと思ひます。

地図と私

遺愛女子高等学校 2年
松下 海星

5.環境地図づくりとは？

- ①身近な環境について関心をもつ
- ②地図を作って改めて身の回りの環境を知ることができる
- ③数年続けることによって、環境状況の変化が分かる
- ④地図を見た人も、このような地域があるのかと、知ってもらえる

8.これまでの取り組み

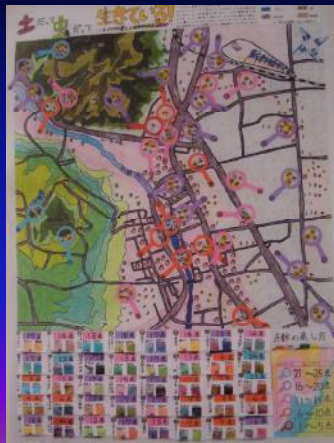
- ・2007年(小5)
大野川の
ふしぎ発見！！



2007年
松下海星さん 5年生
『大野川のふしぎ
発見!!』
(国土交通省国土地理院長賞受賞)

8.これまでの取り組み

- ・2009年(中1)
土だって
虫だって
生きている！



9.地図づくりの魅力

- ①地図のもつ情報量
- ②地図を見れば場所や地形だけでなく、町を知る手がかりになる
- ③自然が創り上げた等高線の滑らかな曲線がとても美しい
- ④世界に一枚だけの地図





